

私はソーシャルワーカー

特定非営利活動法人シーシータイミング CSW 森井まさよ

「だれもが住み慣れた地域で支え合いながら自分らしく生きてほしい。」と願い、高齢化や人間関係の希薄化等により薄れた地域力の再構築等を目標に取り組まれている大阪府の施策があり、私の居住地の市でも、中、小学校区での地域福祉力の向上にむけコミュニティソーシャルワーカー事業（以後 CSW）に取り組んでいる。私も仲間や地域の人たちに支えられて存在する CSW の 1 人である。

CSW の果たす役割の主なものは 制度の狭間から生じる未対応、未解決の課題を見だし、それに対応できるシステムの構築をはかることである。

例えば事例に応じたチームアプローチの促進やサービス・システムへの提案等、よりその人らしく生きてもらうために、社会的要求（経済面、家庭面、健康保健面、地区との人間関係面、興味等の生きがい面、人権・生存権の保障面等での制度とのつながり等）が満たされているかアセスメントし、必要であればエンパワメントの支援やソーシャルサポートにも取り組んでいる。「地域福祉は生活課題に取り組むことでもある」という考え方を土台に、ひとりでも多くの課題を持つ人に寄り添い、生きる意欲につながっていったらと考えている。しかし、実際には課題のある人にどのように行き着くかが一番の悩みである。

小地域ネットワークの活動等、住民福祉活動との密接な連携を通して、分野別対応システムの統合化を小学校区ごとにはかり、中学校区やひいては全市域へとトータルな地域ケアシステムづくりに広げていくことを目指している。

地域には様々な社会資源が存在するが、資源それぞれに対象や方法等に制限があったり、地域の人簿に悩んでもいるにもかかわらず小地域ネット活動など、地域で福祉委員会が組織され自ら企画、運営する住民主体の活動がニーズに応じて活発に活動されている。私はその活動団体に専門職として公立機関や各福祉機関と連携をとりやすい立場として寄り添わせていただいている。

“顔の見える CSW”、“身近にいる CSW”でいることが地域の課題へ近づく第一歩だと考えているが、実際には福祉委員会などが活発に活動している地域ほど住民とのふれあいが多し。私としては、CSW 活動には人と人との信頼関係が土台であると気づく日々だ。

地域の生活課題が、高齢、障害、児童など各分野において重複化し、複合化している現在、「その人の生活と人生を尊重してできる限り自立した生活をしてもらいたい」と願っても制度と制度のはざままで動きようのないケースも多く出てくる。そんな時まだ未熟な私は、なりふり構わず、隣接諸領域の専門職や各種団体に教を請うことにしている。また常に

情報交換をしたり、ケース検討会等々で協働を依頼する。その際、情報交換システムを通して、提供を受けた情報はきちんと現場にかえすことを大切にしている。

「この人は何が出来るのか。何を希望しているのか」をケース検討する上で何より土台になるのは、より科学的なアセスメントである。そのために CSW としてアセスメントし、ソーシャルサポートする時、学校心理士、教育カウンセラーとしての経験が生きてくる。また反対に心理的サポートを依頼される時、ソーシャルワーカーとしての経験が私を助けてくれる。動きの厳しい社会情勢の中では心理的支援のニーズが増えてきていると実感している。

ソーシャルワーカー協会が広報誌等で届けてくださる新しい情報をはば広い福祉ネットワークづくり、ソーシャルサポートに役立たせてもらっている。

日頃の取り組み

(1) 誰に対しても誠実でありたいと思っている私が大事にしている取り組みは担当地域の中をとにかく歩くことだ。そこで、孤立している人から話を聴かせてもらって、福祉委員会主催のいきいきサロンへお願いすることで行き場づくりをしたり、ボランティア活動に紹介したりする。地区で開催される福祉関連集会の情報をいただくと時間のある限り出席する。そうすることで顔なじみの輪がひろがる。地域がハダで感じられる。

「昨日心配ごとがあって寝られへんかったんよ」とか「独居の親や友人が心配で、近くへ行ったら訪ねてみてくれる」とか「妻が体調が悪くて買物係はわしなんや」ってなに気ない会話が増えていくことが一番嬉しい。「地域のよろず相談引き受け所」を自認したい私だが、実際には地域の人々の課題に取り組む度に CSW として、人として育ててもらっているのが実態だ。

(2) 昨年春、他の CSW の人と手をつないで、地域活動交流会を開催した。「みなさまの地域活動（高齢・障がい福祉、子育て支援、健康づくり、地域福祉など）のアピールや PR をし、他のさまざまな地域活動をしている方々とコミュニケーションを深め、みんなで手をつなごう！」というキャッチフレーズで金剛地区に呼びかけた結果、19 団体（個人のボランティア、福祉委員会、趣味の会、地域の自治会や老人会、NPO 法人、在宅介護支援センターの担当者）の参加があり、この交流会の登録個人・団体紹介冊子「ちいきのみんなで手をつなごう」を発行した。団体だけではなくすでに活躍している個人のボランティアの人たちや今後ボランティアをしようと思っている人たちの活動の場が増えていくことを願って、また次回を実践できたらと考えている。

(3) 私が所属している特定非営利活動法人シーシータイミングにお願いし三、四ヶ月に一度地域貢献イベント「文化を楽しむ会」を開催している。

ボランティアを招き、地域や福祉機関などへの情報提供は私が担当し、無料で地域に開放される。この行事が回を重ねるごとに参加人数が増えていくのが嬉しい。

(4) 同圏域の専門職と手をつなぐことを大切にしている。例えば、高齢者部門では地域

包括支援センターを中心に、街かどデイハウスの担当者と在介担当者、CSW が参加して月一回の会議を開き情報交換し課題などサポートしあっている。また、地域の人たちに情報提供をかね、広報誌を年二回発行している。

CSW として活動を始めて約二年、地域で様々な行事を実践しておられる自治会長さん、民生委員さん、福祉委員さんはじめ様々な方々と手をつなぐことで地域ニーズに近づくことが可能になるだろう。また、CSW として具体的な事業を少しずつ起こしていくことが既存ではないネットワークを作ることになり、地域課題が内在しないで表面に出てくることになるだろう。そんなことを夢みて今日も街を歩いている私である。

